

# 民主島根

2022年  
**6.5**  
第1406号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444  
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

## 島根県議会 島根原発2号機再稼動を了承 原発ゼロで省エネ・再エネ推進を 尾村県議が会派を代表して討論

中国電力島根原発2号機の再稼動について、島根県議会は5月定例会初日の26日の本会議で、自民党、公明党などの賛成多数で了承しました。日本共産党は会派を代表して尾村利成県議が討論に立ち、原発稼働の判断基準に「県民の命と安全が守れるのか、県民の理解と合意が得られているのか」を物差しとすべきだと強調。ロシアによるウクライナ侵略での原発攻撃への県民不安を払しょくする対応策は確立されておらず、使用済み核燃料や核のゴミの処理方法も未確立であること、市民団体が学校や病院などに実施したアンケート調査で約6割が「避難計画に基づく対応は不可能」と回答していることなど10点の理由を述べ



宣伝する(左から)大国、福住、尾村、橘、舟木の各氏(松江市)



事務所開きで挨拶する(右から2人目)福住氏(松江市)

べました。尾村県議は、原発直下には140kmの活断層が走り、地震や頻発する自然災害の脅威に対し「為政者は謙虚であるべきだ」と訴え、「島根の希望ある道は、原発ゼロを断し、省エネ・再エネ推進で新たな産業と雇用を創出することだ」と主張しました。

の福住ひでゆき参院鳥取・島根選挙区予定候補、尾村、大國陽介の両県議、舟木健治、橘ふみ両市議が島根原発から約9kmの商店街前で抗議宣伝。福住氏は「参院選で原発推進勢力に厳しい審判を下そう」と呼びかけました。昼には、原発ゼロをめざす島根の会と金曜日行動が県庁前で再稼働反対の集会を開きました。

### 参院選躍進へ 比例&福住事務所開き

松江 党と後援会決起集会も

日本共産党島根県委員会は5月21日、参院選で、にひそうへい前参院議員の比例議席を奪還し、比例5議席確保と鳥取・島根選挙区での勝利をめざし、松江市内で福住ひでゆき参院鳥取・島根選挙区予定候補の事務所開きを行いました。上代善雄県委員長は、公示日までのたたかいが勝敗を分けると強調。「戦争か平和か、日本の進路と暮らしがかかった歴史的な選挙。あらゆる力を総結集し、自由と平和をまっすぐつらぬく日本共産党の躍

進を必ず勝ち取ろう」と呼びかけました。福住氏は暮らしを壊す大軍拡、消費税増税増税増税を許してはならないと述べ、弱肉強食の新しい自由主義から決別し、やさしく強い経済をつくる五つの提案を紹介。島根原発の再稼働を許すのかどうかが参院選の争点だとし、「原発ゼロでブレない

共産党を伸ばしてほしい」と訴えました。尾村利成副委員長(県議)が、にひ参院比例候補のメッセージを紹介しました。この日は、東部地区委員会が同市内で「参院選必勝!党と後援会の決起集会」を開催。20日夕には、中部地区委員会が出雲市内で決起集会を開きました。

### 市長選 共産党支持 山本氏及ばず

市長選 共産党支持 山本氏及ばず (投票率71.96%)

5月22日告示・29日投票された江津市議選で、日本共産党の森川佳英、多田伸治の両氏は定数16名に対し、18名が立候補する少数激戦を制し、現有2議席を守りました。得票率は10.23%でした。開票結果は次の通りです。

市長選は山本氏惜敗 29日投票された江津市長選は、日本共産党が支持した無所属で新人の山本誉氏(64)は6151票(得票率46.09%)を獲得しました。開票結果は次の通りです。

森川 佳英(現) 693票・12位  
多田 伸治(現) 672票・13位

山中村 中無所属(新) 7269票  
山本 誉 無所属(新) 6151票

日本共産党の躍進で憲法を守り生かす政治を

## 日本共産党演説会

6月4日(土) 13:00~松江・イオン前  
15:00~出雲・朱鷺会館

弁士

参院議員

さとし

## 井上 哲士



- にひそうへい(前参院議員・参院比例)
  - 福住ひでゆき(参院鳥取・島根)もお話します。
- YouTubeでオンライン・ライブ配信します。自宅のパソコンやスマホを使ってYouTube「jcpshimane」チャンネルで視聴できます。ヤフーやグーグルなどで「jcpshimane」と入力し検索して下さい。

### 鼓動

「8時だよ!! 昔は集合今閉店」——第一生命保険が5月27日発表した第35回「第一生命サラリーマン川柳コンクール」で、栄えある第1位に輝いたのが冒頭の一句。全国から約6万句以上の作品が集まり、ファン投票により決定したベスト10が発表された▼「ウイルスも上司の指示も変異する」(2位)、「菓ごもりMからLに服反応」(4位)、「ズーム中ペット参加で盛り上がる」(10位)など、コロナ禍での生活の変化や職場での変化をユーモラスに表現した作者の秀逸なワードセンスに今年も大いにうならされた▼1987年に第1回の募集をして以降、「サラリーマン川柳」はその名の通り、「いい家内」10年経ったら「おっ家内」(1993年・第1位)、「わが家では子供ポケモン」(1998年・第1位)などサラリーマン目線の「ブラックユーモア」で世相を切りとり続ける「サラ川」は楽しみみの一つ▼今回、第一生命は「職場や家庭の日常を五・七・五にのせてユーモアたっぷりに表現していただくコンテスト」は守りながら、一人ひとり異なる価値観やライフスタイルを持つ「わたし」が感じた日常を気軽に応募していただきたい」として、名称を「サラっ」と一句!わたしの川柳コンクールへと改めることも発表。新たな名称について「様々な働く人」が増え、働き方も多様化しています。そうした時流を踏まえたもの」としている▼年齢や性別を問わず、多くの人により開かれたコンクールとして、今後はどんな作品がランキングされるのか期待が高まる。(遠)